THE ANNUAL REPORTS OF
HEALTH, PHYSICAL EDUCATION
AND SPORT SCIENCE
VOL.34, 65-68, 2015

報告書（体育研究所プロジェクト研究）

日本の競技団体におけるスポーツ国際交流史
－第二次世界大戦前後のオリンピック競技大会競技を中心に－

The history of international sports exchanges by sports federations in Japan：Focusing on the Olympic Sports before and after WWII

田　原　淳　子*，千　葉　洋　平**

Junko TAHARA and Yohei CHIBA

Ⅰ．研究の目的

周知のように、日本は第二次世界大戦における敗戦後、一時的にアメリカの管理下に置かれ、民主化と非軍事化の方針のもとで多方面にわたり大きな変革がなされた。一方、スポーツ界では、敗戦に伴い、日本の競技団体（NF）の多くが国際競技連盟（IF）から除名され、戦後の初開催となった1948年オリンピック競技大会（ロンドン）に日本は招待されなかった。その後、日本はNFのIFへの再加盟を経て、1951年第１回アジア競技大会（ニューデリー）で国際大会に復帰し、1952 年ヘルシンキ大会において、1936年ベルリン大会以来16年振りのオリンピック復帰を果たした。

このようなスポーツ界における日本の戦後復帰については、多くの書物が辿るところであるが、そこに至る詳細な経緯についてのNFに関する研究は皆無に等しい。

そこで、本研究では、第二次世界大戦前後の国際政治・外交に着目しながら、日本のオリンピック競技大会参加と当時のオリンピック競技のNFによるスポーツの国際交流の概要を明らかにすることを目的とした。これにより、戦前と戦後を比較しながら、オリンピック競技大会を柱とした日本の競技団体の戦後復帰の全体像を把握するための基礎資料を得ることができる。

Ⅱ．研究の方法

第二次世界大戦の前後にあたるオリンピック競技大会（1936年ベルリン大会および1952年ヘルシンキ大会）における実施競技とそれらについての日本の参加状況を確認し、表１にまとめた。

次に、ベルリン大会およびヘルシンキ大会の実施競技のIFと日本のNFそれぞれの設立年、日本のNFが当時国内オリンピック委員会を兼ねていた大日本体育協会（戦後は日本体育協会）に加盟した年、IFへの初加盟年と戦後の再加盟年について、表２にまとめた。

また、研究対象とした日本の各NFの競技史における発祥時期からヘルシンキ大会までの期間の国際交流について、年月日、交流相手国または関係国、交流の事柄を整理し、表３にまとめた。さらに、そこからNF別に戦前と戦後の主な交流相手国について分析した（表４）。

国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科（Graduate School of Sport System, Kokushikan University）

表１　オリンピック競技大会の実施競技と日本の参加状況

	競技	1936年 ベルリン大会	1952年 ヘルシンキ大会
両大会参加	陸上競技	◎	◎
	体操	◎	◎
	水泳（競泳）	◎	◎
	水泳（跳込）	◎	◎
	馬術	◎	◎
	ボクシング	◎	◎
	レスリング	◎	◎
	ボート	◎	◎
	セーリング	◎	◎
戦前参加 戦後不参加	水泳（水球）	◎	○
	サッカー	◎	○
	ホッケー	◎	○
	バスケットボール	◎	○
	芸術競技	◎	
戦前不参加 戦後参加	射撃	○	◎
	ウェイトリフティング	○	◎
	自転車	○	◎
	フェンシング	○	◎
両大会不参加	近代五種	○	○
	カヌー	○	○
	ハンドボール	○	
	ポロ	○	
	野球	△	○
	グライダー	△	

○実施競技
◎日本参加競技
△公開競技

当時の状況についてより深く理解するため、スポーツライターの賀川浩（1924年生まれ）にインタビューを実施した。最後に、上記から明らかになったことを踏まえて考察を行った。

Ⅲ．結果と今後の課題

本研究の結果、以下のことが明らかになった。

第二次世界大戦前後の日本のオリンピック競技大会への参加状況を確認したところ、次の４つのカテゴリーに分類された（表１）。1）戦前のベルリン大会と戦後のヘルシンキ大会の両大会に参加した競技、2）戦前には参加したが戦後は参加しなかった競技、3）戦前は参加しなかったが戦後は参加した競技、4）両大会とも参加しなかった競技。戦前に参加した実績をもちながら戦後不参加であった競技（水球、サッカー、ホッケー、バスケットボール）は、いずれも球技である。賀川によれば、当時は戦後の経済難からより多くの選手の参加が必要になるチームスポーツの参加は見送られた。一方、戦前に不参加で戦後に参加を果たした競技（射撃、ウェイトリフティング、自転車、フェンシング）は個人種目であり、かつ第

表２　国際競技連盟（IF）と日本の競技団体（NF）の設立・およびNFの日本体育協会加盟・IF初加盟・再加盟

競技	IF名称（設立時）	設立	NF名称（設立時）	設立	（大）日本体育協会加盟	IF初加盟	除名	再加盟	備考
陸上競技	国際陸上競技連盟	1912	日本陸上競技連盟	1925.3.8	1925.3.24	1928.8.7		1950.8.22	
体操	国際体操連盟	1881	全日本体操連盟	1930.4.13	1930.10.1	1931.2.-		1950.7.17（仮加盟）	
水泳	国際水泳連盟	1908	日本水泳連盟	1924.10.31	1925.3.24	1928.8.-		1949.6.-	
馬術	国際馬術連盟	1921	全国馬術連盟	1946.9.-	1948.5.5	1921		1951.11.20	日本はIF創立8カ国の一つ
ボクシング	国際アマチュアボクシング連盟	1946	日本アマチュア拳闘連盟	1926.7.14	1927.5.24	1932.8.8		1951.10.3	
レスリング	国際レスリング連盟	1912	大日本アマチュアレスリング協会	1932.4.22	1935.5.20			1949.2.-	
ボート	国際ボート連盟	1892	日本ボート協会	1920.6.1	1925.3.24			1951.8.-	
セーリング	国際セーリング連盟	1907	日本ヨット協会	1932.11.27	1935.5.20	1935.11.8			
サッカー	国際サッカー連盟	1904	日本サッカー協会	1921.9.10	1925.3.24	1929.5.-	1945.11.-	1950.9.23	
ホッケー	国際ホッケー連盟	1924	日本ホッケー協会	1923.11.18	1925.3.24	1924.11		1950.11.3	
バスケットボール	国際バスケットボール連盟	1932	大日本バスケットボール協会	1930.9.30	1930.12.2	1935.10.-		1950.10.25	
芸術競技			大日本体育芸術協会	1931.7.-	1954.6.17				
射撃	国際射撃連合	1907	大日本射撃協会	1937.4.29	1951.5.10	1938.6.23		1951.12.14	
ウェイトリフティング	国際ウェイト・リフティング連盟	1905	日本重量挙競技連盟	1936.5.31	1938.5.31			1950.10.13	
自転車	国際自転車競技連合	1990	日本サイクル競技連盟	1934.12.12	1938.5.31			1949.8.-	
フェンシング	国際フェンシング連盟	1913	大日本アマチュア・フェンシング協会	1936.10.23	1949.10.12	1939.3.-		1951.4.6	
近代五種	国際近代五種連合	1948	日本近代五種競技連合	1955.2.2	1955.12.26	1955.10.27			
カヌー	国際カヌー連盟	1924	日本カヌー連盟	1938.3.17	1966.7.20				
ハンドボール	国際アマチュアハンドボール連盟	1946	日本送球協会	1938.2.2	1938.5.31			1951.9.-	
ポロ	国際ポロ連盟	1982							
野球	国際野球協会	1938	日本野球連盟	1949.2.16	1987.6.25				

表３　日本の競技団体の国際交流に関する歩み（1952年ヘルシンキオリンピック以前）

年月日	競技	相手国・関係国	事柄
1878	射撃（クレー）		横浜外人居留地内の放鳥射撃が日本の動的射撃の起こりで、横浜放鳥会結成
1906.11.23	ホッケー	アイルランド	アイルランド人ウィリアム・T・グレー牧師により慶應義塾にホッケー渡来
1909	バスケットボール	アメリカ	大森平蔵がアメリカの国際YMCAトレーニングスクールを卒業後、東京YMCAで指導
1909	セーリング	イギリス	小野暢三が英国留学からの帰国後、長崎造船所でディンギーを造って乗り始める
1912			第5回オリンピック競技大会（ストックホルム）（日本初参加）
1913	バスケットボール	アメリカ	アメリカから来日したF.H.ブラウンが日本での普及に尽力
1918 以前	射撃（クレー）	アメリカ	アメリカからクレー標的とハンド・トラップが輸入され、射撃競技につながる
			第一次世界大戦
1916			第6回オリンピック競技大会（ベルリン）第一次世界大戦により中止
1918	射撃（クレー）	アメリカ	アメリカから自動式放出機が輸入され、アメリカンルールによる射撃に変更される
1919	サッカー	イギリス	FAシルバーカップがサッカーの母国イングランドから寄贈（日本サッカー協会の起源）
1920			第7回オリンピック競技大会（アントワープ）
1921.12.–	ボクシング	アメリカ	渡辺勇次郎がアメリカから帰国後、日本拳闘倶楽部を設立（東京）
1922.7.–	ハンドボール	ドイツ	大谷武一がドイツに立ち寄った際、ハンドボールに触れ、日本体育学会夏期講習会で紹介
1924	陸上競技	アメリカ	日米対抗競技会を東京と大阪で開催
1924			第8回オリンピック競技大会（パリ）
1924	レスリング	アメリカ	内藤克俊がアメリカのペンシルバニア州立大学留学中にパリでオリンピックに参加
1927	水泳	アメリカ	全米屋外選手権大会（ハワイ）
1928			第9回オリンピック（アムステルダム）
1929	水泳	アメリカ	全米女子屋外選手権大会（ハワイ）
1929	レスリング	アメリカ	八田一郎が早稲田大柔道部のアメリカ遠征でレスリングと遭遇
1930.5.3	ボクシング	フィリピン	第9回極東選手権大会参加（東京）、参加国は日本とフィリピン
1931	水泳	アメリカ	第1回日米対抗水泳競技会（神宮）
1931.12.–	ウェイトリフティング	朝鮮半島	飯田徳蔵ら3人が第2回全朝鮮力道大会に招待される
1931.4.–	レスリング	アメリカ	八田一郎が早稲田大にレスリング部を創設
1932			第10回オリンピック競技大会（ロザンゼルス）
1934.3.–	ウェイトリフティング	オーストリア	国際基準のバーベルが日本に到着（嘉納治五郎がオーストリアで購入）
1935	フェンシング	フランス	岩倉具清がフランス留学中に習得し、日本フェンシング倶楽部を設立
1935.2・6.–	ボクシング	フィリピン	フィリピンと交流試合
1935.6.–	陸上競技	フィリピン	フィリピン・関東・近畿の対抗競技会（甲子園）
1936.7.31			第12回オリンピック競技大会の開催地が東京に決定（IOC総会）
1936.8.			第11回オリンピック競技大会（ベルリン）
1937	レスリング	アメリカ	アメリカチームを招待し、日米対抗戦（東京ほか）
1937	フェンシング	チェコ	チェコのレブレンスキーによる講習会開催
1938.7.16			1940年第12回オリンピック競技大会（東京）の開催権を返上（組織委員会）
1938.9.16	ハンドボール	ドイツ	来日したヒットラー・ユーゲント選抜チームと対戦（初の国際試合）
1939.11.7	ボクシング	アメリカ	アメリカと交流試合（東京）
1940			第12回オリンピック競技大会（ヘルシンキ）第二次世界大戦により中止
1943.12.5	ハンドボール	ドイツ	枢軸国交歓球技大会に参加し、全日本対在日ドイツ人選抜が試合
1944			第13回オリンピック競技大会（ロンドン）第二次世界大戦により中止
1945.8.15			第二次世界大戦
戦後まもなく	射撃（クレー）	アメリカ	駐留アメリカ軍人との間に狩猟およびクレー射撃を通じての交流が始まる
1946–1950	フェンシング	アメリカ	アメリカから強制送還されていた森寅雄が学生の技術指導を担当
1948	射撃（クレー）	アメリカ	第1回トラップ射撃全日本選手権大会（東京）がアメリカ人を交えて開催される
1948			第14回オリンピック競技大会（ロンドン）（日本は招待されず）
1948.8.–	水泳	アメリカ	全米屋外選手権大会（ロサンゼルス）
1949–1952	レスリング	アメリカ	アメリカチームの招待と渡米が復活
1951.3.4–11	陸上競技、サッカー、ウェイトリフティング、自転車	インドほか	第1回アジア競技大会参加（ニューデリー）＊
1951	射撃（ライフル）	香港、フィリピン	3国通信射撃競技（香港、日本、フィリピン）
1952			第15回オリンピック競技大会（ヘルシンキ）（日本の戦後のオリンピック復帰）

『日本体育協会　日本オリンピック委員会　100年史　PART2 加盟団体のあゆみ』より作成

＊第1回アジア競技大会では、6競技（陸上競技、水泳競技、サッカー、自転車競技、バスケットボール、ウェイトリフティング）が実施され、8カ国（日本、インド、シンガポール、フィリピン、イラン、タイ、インドネシア、セイロン）が参加した。日本は水泳競技には参加しなかった。

1回アジア競技大会に出場して戦後に国際大会を経験した競技（ウェイトリフティング、自転車）、および戦後早くからアメリカとの交流を行なっていた競技（フェンシング、射撃）であった。

オリンピック競技大会への出場は、NFがIFに加盟していることが前提になる。戦後、いち早くIFへの再加盟を果たしたのはレスリングであり、次いで水泳であった。これらは、戦後、組織的にアメリカ本国との交流を積極的に行なった競技であった。一方、射撃とフェンシングも戦後まもな

表４　競技団体別の国際交流先（1952年ヘルシンキオリンピック以前）

	相手国・関係国	
競技	戦前	戦後
陸上競技	アメリカ、フィリピン	
水泳	アメリカ	アメリカ
サッカー	イギリス	インドほか＊
ホッケー	アイルランド	
ボクシング	アメリカ、フィリピン	
バスケットボール	アメリカ	
レスリング	アメリカ	アメリカ
セーリング	イギリス	
ウェイトリフティング	朝鮮半島、オーストリア	インドほか＊
ハンドボール	ドイツ	
フェンシング	フランス、チェコ	アメリカ
射撃（クレー）	アメリカ	アメリカ
射撃（ライフル）		インド、香港、フィリピン
自転車		インドほか＊

＊第1回アジア大会参加による

くアメリカ人と交流を行なっていたが、交流の内容が日本国内のアメリカ人とのものであり、アメリカ本国との組織的な交流ではなかった。このことが、日本選手団入りの選考には有利にはたらいても、国際組織であるIFへの復帰の時期が他のNFに比較して遅かったことと関係しているものと考えられる。

以上のことから、戦後早い時期からのアメリカ本国との組織的なスポーツ交流が、日本のスポーツ界の国際社会への復帰に大きな後押しになったことが示唆された。

なお、今後の課題として、日本の各NFの資料から戦後のIF再加盟およびオリンピック競技大会への参加に至る詳細な経緯を調査し、併せて、対応するIFの資料からも日本の再加盟と国際大会出場の経緯を検討していきたい。

本研究の一部は、平成27年度国士舘大学体育学部附属体育研究所の研究助成により実施された。

文献等

・日本体育協会・日本オリンピック委員会（2012）日本体育協会・ 日本オリンピック委員会100年史，PART2 加盟団体の歩み，日本体育協会・日本オリンピック委員会．
・田原淳子（2015）近代スポーツの発達と近代オリンピックの創始．木村吉次編著，改定３版体育・スポーツ史概論，市村出版，p.117.
・賀川浩氏インタビュー．2015年10月20日実施（東京・御茶ノ水にて）